

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 丸山 奈穂	(学部) 地域政策学部
<p>1 研究</p> <p>➤ 調査データの収集</p> <p>外国人街の観光地化に関する基礎的研究(平成12年度基盤研究(C))のためのデータを収集した。この研究は、群馬県大泉町および大阪市生野区を例として、外国人街の観光地化が、日本人住民と外国人住民の相互理解や外国人住民のエンパワーメントといった地域問題の解決につながるかを探ることにある。そのため、今年度は昨年度に引き続き、大泉町および大阪市生野区でアンケート調査を実施した。大泉町では主にブラジル人住民を対象にアンケートを配布し約100人から回収ができた。また大阪では日本人住民と韓国人住民合わせて150人から回収ができた。</p> <p>➤ 論文の執筆、投稿</p> <p>博士論文に基づいて、中国系アメリカ人が中国を観光者として訪れることに関する論文を投稿した。審査員からコメントを受け取り、加筆修正の途中である。また、外国人街の観光地化に関する論文を合計6件投稿し、うち5件が出版された(本学紀要2件、Tourism Management 2件、観光研究1件)。残りの一件は、大泉町における日本人住民とブラジル人住民のエンパワーメントレベルを測定比較したものであり、審査を待っている段階である。また、研究者自身のエスニシティが研究に与える影響に関する論文を執筆し、本学紀要に掲載された。</p> <p>2 教育</p> <p>➤ グループ研究の実施</p> <p>演習Iでは、昨年同様グループ研究に取り組んだ。今年度はゼミを3つのグループにわけ、研究テーマの設定から研究計画書の執筆、調査関係機関への協力依頼、調査の実施、報告書の完成までを学生が主体的に進めている。調査は、埼玉県小川町、群馬県伊勢崎市、群馬県草津町の3か所で行われている。</p> <p>➤ 卒論のためのデータ収集</p> <p>演習IIでは、全員が卒論のためのデータを学外で収集した。3年次に行ったグループ研究での経験を応用し、個人ですべての作業を行うことができた。</p> <p>➤ サマリーシートの作成</p> <p>演習IおよびIIでは、読んだ文献の要点をまとめ、さらに批評を記入したサマリーシートを毎回作成提出させることにより、文献を批判的に読む姿勢、またディスカッションに準備をして臨む姿勢の向上がみられた。</p> <p>➤ ディスカッションおよびプレゼンテーションの実施</p> <p>各講義では毎回グループディスカッションを行い、学生が考え発言する能力を高めることができた。自ら挙手し発言する学生も増えてきた。また、グループでのプレゼンテーションを行い、与えられた課題のなかで、リサーチをする能力を付けた。</p> <p>➤ 来年度への抱負</p>	

来年度は、大阪においてさらに 500 枚のアンケート票を収集し、論文を執筆することを目標とする。また、新たに科研費に採択となった課題（世界遺産観光における地域住民のエンパワーメント）にむけて、富岡市でのインタビュー調査を始めたい。また、今年度は学会発表ができなかったため、来年度は積極的に行いたい。

教育面では、演習 I においては、積極的に海外の事例を取り入れた輪読を行う。また、ゼミ長だけではなく個々がリーダーシップを取る機会を増やすために学生主体のフィールド調査の機会を増やしたい。演習 II においてはグループ研究の調査結果を報告書にまとめ、調査に協力いただいた関係機関に送付する。また、就職活動の時期が今年度と変わることを踏まえ、卒論との両立のための良い方法を探りたい。講義においては、クラス内での積極的な発言を促すよう努力したい。

2 その他の事項

- 群馬県内で調査を行う際には、可能な限り学生をアルバイトとして雇用し、調査の仕方などを実際に参加することで学べるようにした。